

令和7年度第1回さいたま市公共事業評価審議会 摘録

- 1 開催日時 令和7年11月7日（金）9時30分から11時00分まで
- 2 開催場所 西会議棟 第1会議室（オンライン会議）
- 3 出席者 委員 桑田会長 小口委員 久野委員 黒金委員 中野委員
深堀委員 山崎委員
さいたま市 建設局 斎藤局長
建設局土木部道路環境課 山崎課長 外5名
建設局建築部建築総務課 和久津参事兼課長 外2名
建設局土木部河川課 椿課長 外2名
事務局（建設局技術管理課） 横田課長 外3名

4 議 事

- (1) 会長の互選
- (2) 職務代理者の指名
- (3) 議案審議

[事前評価] 安全・安心なみちづくり（第2期）（防災・安全）

[事前評価] さいたま市における安全・安心な居住環境の整備（第四期）（防災・安全）

[事前評価] さいたま市における浸水被害の軽減を図る治水対策の推進＜第3期＞（防災・安全）

- (4) その他

5 傍聴者 なし

6 議事内容

- (1) 会長の互選

事務局	<ul style="list-style-type: none">・今回、委員改選後、はじめての審議会となり、会長の互選が必要となる。・審議会条例第4条第1項の規定に基づき、審議会に会長を置き、委員の互選により定め、同上第2項の規定に基づき、会務を総理し、審議会を代表するとされている。・各委員の皆様方から推薦がなければ、事務局から提案させていただきたい。
委員	(異議なし)
事務局	<ul style="list-style-type: none">・事務局の提案としましては、都市計画を専門とされており、当審議会においても3期に渡り委員をお務めいただいた桑田先生が適任と考える。
委員	(承諾)
事務局	<ul style="list-style-type: none">・桑田先生、どうぞよろしくお願ひいたします。

桑田会長	・会長を務めさせていただきますので、よろしくお願いします。
------	-------------------------------

(2) 職務代理者の指名

桑田会長 委員	・条例第4条第3項により、職務代理者は深堀委員を指名する。 (承諾)
------------	---------------------------------------

(3) 議案審議

[事前評価] 安全・安心なみちづくり（第2期）（防災・安全）

深堀委員	<p>[道路環境課より説明 資料1]</p> <p>《質疑応答》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁の指標についてだが、10%向上で8橋耐震化をすることだが、79橋のうちどういう優先順位で8橋を選定したのか。 ・羽根倉橋では、約5年前に床版補修で大規模な交通規制をかけていた。メンテナンスサイクルの中で、補修がどのように進められているのかは、市民としても気になるところではないか。例えばコストは平準化する必要はあると思うが、補修と耐震化を合わせて実施することで、長期的には効率が良いという視点もあると思われる。今回の耐震化の事業を評価するにあたって、どのような計画のもとで橋梁が選定され、耐震化や補修が行われているのか説明がほしい。
道路環境課	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、第2期計画として、耐震化や補修を実施している。第1期では、特に重要な橋梁として、緊急輸送路や高速道路、鉄道を跨ぐ橋梁、複数径間の橋梁など45橋を優先的に実施すべきものとして選定し、そのうち41橋は対策を完了している。第2期では、市指定の緊急輸送道路や単径間橋も対象として、計画を追加した。 羽根倉橋に関しては、施工内容によっては補修と補強を同時に実施する予定であり、工種によっては片側交通規制が生じる場合がある。その際は、事前に周知を図っていきたい。
深堀委員	<ul style="list-style-type: none"> ・補修と耐震化を合わせて効率的に行い、市民生活にあまり影響が出ない

	のように事業を進めてもらえばよい。
桑田会長	・市として補修と耐震化を一体的に実施し、効率的に事業を実施していくという理解でよいか。
道路環境課	・そのとおりである。
小口委員	・耐震補強工事とは具体的にはどのような工事なのか。
道路環境課	・主な工種として、橋脚の補強（鋼製材による補強やコンクリート巻き立て）、落橋防止装置（地震時に橋げたが橋台から落下することを防ぐ）の設置が挙げられる。
小口委員	・地震対策では、どの程度の規模の地震を想定しているのか。
道路環境課	・阪神淡路大震災規模の地震を想定している。 (意見等以上)
桑田会長	・市の事業評価（案）に特段の意見はなしでよろしいでしょうか。
委員	(意見なし)
桑田会長	・本件の審議は以上。

さいたま市における安全・安心な居住環境の整備（第四期）（防災・安全）

	[建築総務課より説明 資料2]
深堀委員	《質疑応答》 ・住宅の耐震化率の指標について、設定した指標でも評価として問題ないと考えるが、耐震化されていない住宅を母数にし、それがゼロに近づいていくような指標の方が市の事業の効果を測定できる指標のように感じる。耐震化されていない住宅の数は把握しているか。
建築総務課	・耐震化率の算定にあたっては国から示された考え方を準拠している。

	<p>耐震化されていない住戸が3万ほどあり、実際に全ての耐震化状況を把握するのは難しい状況である。</p>
深堀委員	<ul style="list-style-type: none"> 事業が多岐に渡るため、啓発関係の項目など、指標がすべてを網羅できていないことはやむを得ないと感じるが、市民に事業を知つてもらうようなことを行つているのか。
建築総務課	<ul style="list-style-type: none"> 自治会での回覧板や市報へ掲載し情報提供を行つている。
桑田会長	<ul style="list-style-type: none"> 「棟数」、「住宅数」、「戸数」とあり、住宅数は「棟数」と「戸数」どちらになるか。
建築総務課	<ul style="list-style-type: none"> 「戸数」になる。 <p>(意見等以上)</p>
桑田会長	<ul style="list-style-type: none"> 市の事業評価（案）に特段の意見はなしでよろしいでしょうか。
委員	<p>(意見なし)</p>
桑田会長	<ul style="list-style-type: none"> 本件の審議は以上。

[事前評価] (さいたま市における浸水被害の軽減を図る治水対策の推進<第3期> (防災・安全)

	<p>[河川課より説明 資料3]</p> <p>《質疑応答》</p>
小口委員	<ul style="list-style-type: none"> 改修後の浸水家屋数はどのように算出したのか。改修後の河川長と浸水家屋数はリンクしているのか。
河川課	<ul style="list-style-type: none"> 改修後の浸水家屋数は全河川長改修後を想定し、シミュレーションを行い算出している。シミュレーションはソフトを用いて、河川の形状、地形を作成し、計画上の降雨量を降らせて事前と事後の数値を算出している。
小口委員	<ul style="list-style-type: none"> 流域や微地形も考慮されているのか。

河川課	<ul style="list-style-type: none"> 考慮されている。
久野委員	<ul style="list-style-type: none"> 家屋の高さ情報は、シミュレーションに反映されているのか。
河川課	<ul style="list-style-type: none"> 家屋そのものの高さはシミュレーションにはないが、地盤高を反映している。
深堀委員	<ul style="list-style-type: none"> 氾濫解析は改修前のみだと思われるが、2年おきの数値は河川延長の比率で家屋数と氾濫面積を算出しているという認識でよいか。
河川課	<ul style="list-style-type: none"> お見込みのとおり。
深堀委員	<ul style="list-style-type: none"> シミュレーションは費用がかかることだが、改修前だけでなく改修後についても、最新の家屋状況を反映してシミュレーションを実施した方がよいのではないか。シミュレーションが可能であるのに割合で算出しているのは、案件に限らず課題があると感じている。 また、上院川についてだが、支川の上流部でも浸水が起こっているが、事業が完了すると想定浸水戸数と氾濫面積がゼロとなるのは下流の整備が完了すれば、上流側も解消するという認識か。
河川課	<ul style="list-style-type: none"> お見込みのとおり、上院川の整備が行われることによって、支川の浸水も無くなるというシミュレーション結果である。
深堀委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料には暫定と記載があるが、将来、本格整備が行われる予定があると思われるが、公共事業として、橋梁や用地買収については将来を見越して効率的な整備ができる計画となっているのか。
河川課	<ul style="list-style-type: none"> 時間雨量が増えた場合を想定して、将来を見越した計画になっている。
黒金委員	<ul style="list-style-type: none"> 降雨量に関しては 30 mm/h で適切なのか、また、目標値は、家屋の浸水戸数が対象なっているが、家屋以外の浸水箇所等の把握はできているのか。
河川課	<ul style="list-style-type: none"> 30mm/h の根拠としては、下流の 1 級河川への放流量が制限されているため、30mm/h 以上の改修はできないためである。河川以外の浸水箇所の把握としては、本市の水位情報システムにて把握している。
小口委員	<ul style="list-style-type: none"> 軟弱地盤の場合は、河床掘削に伴って不同沈下を起こした事例もあるので、注意して事業を進めていただきたい。
(意見等以上)	

桑田会長	・シミュレーション等について課題をあげてはいただいたが、市の事業評価（案）については特段の意見はなしでよろしいでしょうか。
委員	(意見なし)
桑田会長	・本件の審議は以上。

(4)-1 その他 全体を通してのご意見

山崎委員	・今後、安全な道づくりや住環境の整備を進めていく上では、みどり（樹木）を点検していくことが重要になってくることに留意していってもらいたい。
黒金委員	・県内でも大規模な陥没事故が生じている。陥没を未然に防ぐためにも定期的に点検等を実施していってもらいたい。
中野委員	・公共事業については、費用も時間もかかることがあるので、将来、大きく改修することが想定されるのであれば、その時点で一からやり直すのではなく、将来を見据え事業を計画的に実施していただきたい。

(4)-2 その他（議事録の確認について ※議事の前に確認）

	・今回の審議会の議事録は、桑田会長より指名した久野委員及び黒金委員が事務局で作成する議事録を確認することで了承。
--	--